

チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i> (Thunb.) Roem. et Schult.	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)		キョウチクトウ科
選定理由	既知のすべての生育地で生育条件が著しく悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。また、既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。	写真(奥田浩之)
形態の特徴	多年草。茎は直立し、高さ40-80cm。葉は無毛、披針形で長さ6-10cm、先は鋭くとがる。ふつつ互生するが、ときに一部対生する。茎頂にやや多数の花を集散状につけ、花冠は青藍色で径約13mm、裂片は狭長楕円形で平開する。	
生態的特徴	河川や池周辺の湿った草地に見られる。花期は5-6月。	分布図
分布状況	北海道、本州、四国、九州に分布する。岐阜県においては県北の南西部に見られる。	
減少要因	生育地の改変や乾燥化による植生遷移の進行、園芸目的による過度の採取。	
保全対策	湿地は開発の影響を受けやすいため、生育地の開発規制や立入を禁止するうとともに、湿地の保全・管理を継続していく必要がある。生育地の公表に際しては場所が特定されないような配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1981年)	

文責:奥田浩之